

# 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 追加選定リストの公表について

平成 26 年 3 月 3 日  
人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト選定委員会

「人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト選定委員会」では、選定済みの 3 資源を追加更新するとともに、新たに 9 件を追加選定し、都合 98 件の追加選定リストを取りまとめましたので公表します。

なお、今後も引き続き地域の皆様からのご意見をお聞きしながら、選定数 100 にこだわることなく、逐次追加選定する考えです。

## ○選定リスト

**※赤色下線部は、追加更新した 3 件と追加選定した 9 件です。**  
**※青色下線部は、名称変更した 5 件です。**

なごやま みずよけ 名古屋の水除け	りへえていぼう 理兵衛堤防	わぞさぼうえんてい 上蔵砂防堰堤
あわさわがわほりぬき 粟沢川掘り抜き	かわじのさとかおくいてんきねんひ 川路郷家屋移転記念碑	さぶろくさいさいこうすいひょう 三六災最高水位標
さんかいばんれいとう ろくじぞう 三界萬霊塔／六地藏	おおにしやまほうかいち 大西山崩壊地	とびがすだいほうかいち 鳶ヶ巣大崩壊地／ とびがすだいほうかいち 鳶ヶ巣大崩壊地のビューポイント
ひやっけん ひやっけん 百間ナギ／百間ナギのビューポイント	よがわせちくほんらん 夜川瀬地区の氾濫	しとくしゅうらくあと 四徳集落跡
きたがわしゅうらくあと 北川集落跡	よなきいし 夜泣き石	よなきじぞうださら おおいし 夜泣き地蔵／出砂原の大石
とおやま まいぼつりん 遠山の埋没林	ひらおか 平岡ダム	かわらべんでんうしろむきべんでん 河原弁天(後ろ向き弁天)
にしてんりゅうかんせんすいろ えんとうぶんすいこうぐん 西天竜幹線水路 円筒分水路群	ひがしてんりゅういっかんすいろ 東天竜一貫水路	りゅうさいいっかんすいろ 竜西一貫水路
りゅうとういっかんすいろ 竜東一貫水路	きゅう ふかさわがわすいろきょう (旧) 深沢川水路橋	<u>でんべえごい みぶがわりゅういき ようすいろ</u> <u>伝兵衛五井／三峰川流域の用水路</u>
きそやまようすい 木曾山用水	<u>みこしばつやさぶろう い よこいどぐん</u> <u>御子柴艶三郎の井／横井戸群</u>	いなしすわがた ししがき 伊那市諏訪形の猪垣
こやきょう 姑射橋	みなばらほし 南原橋	きたのさわめがねばし 北の沢眼鏡橋
さかどばし 坂戸橋	こしばし 小渋橋	びつたらばし びつたら橋
いりふねふなつきば 入舟船着場	ときまたこう 時又港	せんじょうじき 千畳敷カール
たぎりちけい たぎりちけい 田切地形／田切地形のビューポイント	<u>みぶがわ かすみてい</u> <u>三峰川の霞堤</u>	いなかいどうさんしゅうかいどう 伊那街道(三州街道)
やすおか 泰早ダム	そうべえていぼう 惣兵衛堤防	おおはし 大橋
さんよりこより	とおやま しもつきまつり 遠山の霜月祭	<u>まつかわ あと</u> <u>松川プール跡</u>
さんしんてつどう 三信鉄道	ともていぼう 伴野堤防	ざこうじいしかわよけ 座光寺石川除
しもみず お志茂の水よけ	ひなたさわさぼうえんてい 日向沢砂防堰堤	ななかまさぼうえんてい 七釜砂防堰堤
まえちやうす 前茶臼ナギ	あらかわだいほうかいち 荒川大崩壊地	みわ 美和ダム
こしば 小渋ダム	おおたぎりがわ いすじ 太田切川の井筋	にしてんりゅうかんせんすいろ りゅうまつ かいだんこう 西天竜幹線水路 流末の階段工 (小沢のそろばん滝)
おんたいすい 恩田井水	せんになづかこうえん じょうがいけ 千人塚公園 城ヶ池	<u>うら くるごうちしんりんでつどうあと</u> <u>浦・黒河内森林鉄道跡</u>
<u>とおやま しんりんでつどう なしもとちよぼくじょうあと</u> <u>遠山の森林鉄道 梨元貯木場跡</u>	おぐろはつでんじょ 小黒発電所	おおくぼはつでんじょ 大久保発電所
にじばし 虹橋	ばし おさひめばし めがね橋 (長姫橋)	いなじばし 伊那路橋
きた じょうばし 北の城橋	なかのばし 中之橋	なんぐうおおはし 南宮大橋
てんりゅうばし 天竜橋	はごろもざきばし 羽衣崎橋	うしくびとうげ 牛首峠
じぞうとうげ 地藏峠	うとうとうげ 善知鳥峠	<u>にいの ゆきまつり</u> <u>新野の雪祭</u>
てんりゅうむら しもつきかぐら 天龍村の霜月神楽	おおだいらとうげ 大平峠	ふかみいけ 深見池
だくりゅう こ いなだにさいがい きろく しゅつばんぶつ 濁流の子-伊那谷災害の記録 (出版物)	おおたぎりがわ はしぼそせき 太田切川 橋場礎石	<u>こまがねこうげん ななめいせき</u> <u>駒ヶ根高原の七名石</u>
<u>まつかわだいいちほつでんじょあと</u> <u>松川第一発電所跡</u>	あんこうろう 安康露頭	きたがわろう 北川露頭
あきはかいどう 秋葉街道	つえつきとうげ 杖突峠	ぶんぐいとうげ 分杭峠
ごんべえとうげ 権兵衛峠	じぶざかとうげ 治部坂峠	<u>たきさわ うるしがく ほしゅうらくあと</u> <u>滝沢、漆ヶ久保集落跡</u>

し びらせつかいがんさいくつじょうあと し びらしゅうらく 芝平石灰岩採掘場跡／芝平集落	さかもとてんざん こんでん ひ 阪本天山の墓田の碑	みぞぐちろとう 溝口露頭
いたやまるとう 板山露頭	い な でんしゃきどう のち い な でんきてつどう 伊那電車軌道 (後の伊那電気鉄道) おめが Ωカーブ	だんきゅうがい だんそうがい しゃめんじゅりん 段丘崖及び断層崖の斜面樹林
みすず みず はなし しゅつぽんぶつ ふるさと美簗の水の話 (出版物)	みすずあおしま せんしゃまい 美簗青島の千社参り	

## ○選定基準

### ・選定の対象地域

原則として上伊那地域及び飯伊地域の 22 市町村とし、関連する周辺地域より選定することを妨げないものとする。

※22 市町村：飯田市、伊那市、駒ヶ根市、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村

### ・選定の基準

次に示す 3 つの選定基準のいずれかを満たしていなければならない。

- <選定基準①> 土木工学的な工夫が認められる遺構
- <選定基準②> 自然史や自然災害の歴史を示すもので、後世に引き継ぐべきもの
- <選定基準③> 地域住民が生活していく上で、努力や工夫をしなければならなかった背景が判るもの

### ・除外の基準

次に示す 3 つの除外基準のいずれかに抵触してはならない。

- <除外基準①> 伝承のみで実体がないもの
- <除外基準②> 信仰の対象であることしか認められないもの
- <除外基準③> 著名な災害にまつわるもの以外の碑

## 空間、時間軸などの繋がりやストーリー性を重視した分類について

## 1. 「土木工学的な工夫」を重視したグループ

※（重複）とは、複数のグループに分類されているものです。

名 称	説 明	所 在 地
(重複) 上蔵砂防堰堤 <small>わぞさぼうえんてい</small>	小渋川に築かれた堤高 23m のアーチ式コンクリート造堰堤。1954 (昭和 29) 年完成した天竜川流域唯一のアーチ式砂防ダム。1951 (昭和 26) 年着工で 1954 (昭和 29) 年に完成したが、その後の洪水で底ぬけを起こし、1961 (昭和 36) 年に復旧事業が行われた。1966 (昭和 41) 年度には副ダムの嵩上が、1970 (昭和 45) 年には第 2 副ダムが施工され、現在に至っている。2009 (平成 21) 年に国の登録有形文化財に登録された。	大鹿村大河原
(重複) 西天竜幹線水路 円筒分水工群 <small>にしてんりゅうかんせんすいろ えんとうぶんすいこうぐん</small>	西天竜幹線水路から水を分けるために設けられた分水施設群。現在、円筒分水工が 35 基活用されており、大小の分水を加えると実に 83 基に上るとされる。2006 (平成 18) 年に土木学会選奨土木遺産に認定された。	辰野町、箕輪町、南箕輪村、伊那市
(重複) 東天竜一貫水路 <small>ひがしてんりゅういっかんすいろ</small>	辰野町平出の天竜川左岸で取水して、辰野町赤羽・樋口地区から箕輪町北小河内地区へ流下している、総延長 9,140m の竜東地区で重要な幹線用水路。1927 (昭和 2) 年に用水に取水する頭首工が建設された。頭首工の表面は、自然石を配置し、堤体はカーブしている。東天竜用水路頭首工は日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物 2800 選)に選定されている。	辰野町平出～赤羽～樋口、箕輪町北小河内
(重複) (旧) 深沢川水路橋 <small>きゅう ふかさわがわすいろきょう</small>	西天竜幹線水路事業で深沢川 (箕輪町) の谷を越えるために造られた水路橋。1927 (昭和 2) 年完成。日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物 2800 選)及び信濃の橋百選に選定されている。現在は町道 (車道) として利用されている。	箕輪町中箕輪八乙女
(重複) 北の沢眼鏡橋 <small>きたのさわめがねばし</small>	田切地形である北の沢川 (辰野町) の谷を最短ルートで渡れるよう造られた橋。完成 1889 (明治 22) 年。橋台が石積み、アーチ部は煉瓦積みで、その形から「めがね橋」と呼ばれた。国の登録有形文化財及び信濃の橋百選に選定されている。	辰野町羽場
(重複) 坂戸橋 <small>さかどばし</small>	1993 (昭和 8) 年に竣工した優美な鉄筋コンクリートアーチ橋で、建設当時、鉄筋コンクリートアーチ橋としては我が国最大のスパンを誇った。コンクリートでありながら木彫の面取りを採り入れ、柱は上に細くそそり立つ。そのデザインは圧巻である。2010 (平成 22) 年に国の登録有形文化財に登録され、信濃の橋百選に選定されている。	中川村大草～片桐
(重複) 泰阜ダム <small>やすおか</small>	1935 (昭和 10) 年に竣工した天竜川流域では最も古い歴史を持つ発電用ダム。日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物 2800 選)に選定されている。	泰阜村～阿南町
(重複) 三信鉄道 <small>さんしんてつどう</small>	JR 飯田線の「天竜峡～三河川合 (約 70km)」区間で、1937 (昭和 12) 年に全線開通した。天竜川の険しい地形と中央構造線のもろい地質に阻まれ、日本の鉄道史に残る難工事となった。泰阜ダムや平岡ダムの建設資材の運搬などにも大きな効力を発揮した。北海道の多くの鉄道で測量技士を勤めた川村カ子トがアイヌ測量隊を率いて断崖絶壁での測量作業をやり遂げ、難工事の末に完成させたとの逸話もある。工事には朝鮮人労働者も多く従事していた。 三信鉄道為栗駅 <small>してぐり</small> の北西には、信濃の橋百選に選定されている万古川橋梁がある。	新城市川合～飯田市川路 天竜峡
(重複) 七釜砂防堰堤 <small>ななかまさぼうえんてい</small>	仏像構造線の位置につくられた砂防堰堤。荒川大崩壊地から流出する土砂を調節するため、高さ 28m、堤長 122.5m、計画貯砂量 121 万 m <sup>3</sup> の砂防ダムとしては大規模なダムが 1984 (昭和 59) 年に完成した。 基礎岩盤が深いため堰堤の基礎処理として簡易ケーソン工法を使用している。この工法の堰堤は全国的に珍しい。	大鹿村大河原

名 称	説 明	所 在 地
<small>みわ</small> 美和ダム	1959 (昭和 34) 年に竣工。三峰川に建設された高さ 69.1m の重力式コンクリートダム。洪水調節・灌漑・水力発電を目的とする、国直轄の多目的ダム (特定多目的ダム) である。 近年、土砂堆積が進み堆砂率が上昇したため、上流から流れてくる土砂をダム湖に貯めず下流に流すバイパストンネルが建設された。	伊那市高遠町
<small>こしぶ</small> 小渋ダム	1969 (昭和 44) 年に竣工。小渋川に建設された高さ 105m のアーチ式コンクリートダム。洪水調節・不特定利水による天竜川の治水のほか、下伊那郡の農地への灌漑と水力発電を目的とする国土交通省直轄の多目的ダム。小渋川総合開発事業の一環として、小渋第 1 発電所、第 2 発電所が小渋ダム築造にあわせて建設された。	中川村、松川町
(重複) <small>いなでんしゃきどう</small> <small>のち</small> <small>いなでんき</small> <u>伊那電車軌道 (後の伊那電気</u> <small>てつどう</small> <small>おめが</small> <u>鉄道) / Ωカーブ</u>	伊那電車軌道は 1909 (明治 42) 年に開通した長野県で最初の民営鉄道。汽車ではなく電車方式による鉄道である。当時隆盛を極めていた蚕糸業 (製糸と養蚕) の輸送を担うため、中央線の誘致を望んだが叶わず、飯田の漆器商・伊原五郎兵衛等の尽力により開設された。現在も当時の開設ルートがそのまま残り、田切地形を大きく迂回するルート「Ωカーブ」などで、全国的に有名である。	飯島町

2. 「防災に対する意識」を効果的に後世に引き継ぐことを重視したグループ

(1) 「未の満水」に学ぶことができるもの

名 称	説 明	所 在 地
さんかいばんれいとう ろくじぞう 三界萬霊塔／六地藏	三界萬霊塔には、未の満水でなくなった多くの人々や獣などの冥福を祈る言葉が彫ってある。1695（元禄 8）年に松岡山安養寺 <small>まつおかさんあんようじ</small> の了溪禅師 <small>りょうけいぜんじ</small> が建立した。六地藏は、1841（天保 12）年に再建された。市田駅近くにある。	高森町下市田
よなきいし 夜泣き石	未の満水の際に、野底川上流 <small>のぞこがわ</small> の山崩れによって川が堰き止められた。その後、土砂が一気に決壊し、川幅の数十倍に広がった激流が土石流を発生させた。この土石流によって野底川の上流から松川合流点付近まで全長 7m にもおよぶ巨石が運ばれてきた。子どもが下敷きになって亡くなり、子どもの泣き声が聞こえてきたので、供養のために石の上に地藏を祀ったとされる。	飯田市上郷別府
よなきじぞう ださら おおいし 夜泣き地藏／出砂原の大石	未の満水の際の土石流で、大島川上流から流されてきた大石。高森町市田駅前の、ビルの裏側に石垣と挟まれたあまり人目につかない場所にある。受難者を供養するために二基の地藏がある。石の横を通ると赤ん坊の泣き声が聞こえ、地藏様を建てたら泣き止んだと言い伝えられている。	高森町下市田

※未の満水とは：1715 年に発生した天竜川上流の洪水のなかでも特筆すべき被害を与えたもので、発生年の十二支から「未[ひつじ]の満水」と呼ばれている。

(2) 「三六災害」に学ぶことができるもの

名 称	説 明	所 在 地
かわじのさとかおくいでんきねん ひ 川路 郷 家屋移転記念碑	三六災害により川路地区の低平地の家屋は壊滅的な打撃を受け、災害後移転した。1966（昭和 41）年に現在の堤防が完成し、家屋の移転が終わったのを記念して建てられた記念碑。川路駅周辺の旧国道沿いには 170 戸が移転した跡地に塀や門が残されている。	飯田市川路
さぶろくさいさいこうすいひょう 三六災最高水位標	川路駅前にある三六災害時の最高水位を示す標柱。地上から 3～4m の高さまで水位が上昇したことが示されている。	飯田市川路
おおにしやまほうかいち 大西山崩壊地	1961（昭和 36）年 6 月 29 日、大鹿村の小渋川沿いにある大西山が大崩壊した。崩壊は高さ 450m、幅 500m、厚さ 15m に渡り、大量の石や土砂が小渋川の堤防よりもはるかに高い山津波となって対岸の家屋に押し寄せた。濁流によって約 30 万 m <sup>2</sup> が消失し、家屋 40 戸が流され、42 名の命を奪った。	大鹿村大河原
しどくしゅうらくあと 四徳集 落跡	周辺地域は小さい谷が網の目のように広がる丘陵地帯で、三六災害時には、土石流が起こり、小渋川合流点で河床が約 10 m 上昇した。中川村の四徳集落では 80 戸のうち 61 戸が被災し、7 名が死亡した。人々は集団移住を余儀なくされ、700 年に及ぶ集落の歴史に終止符を打った。今では原野に戻っている。	中川村四徳
きたがわしゅうらくあと 北川集 落跡	大鹿村の鹿塩川沿いにあった北川集落は、1961（昭和 36）年 6 月 27 日、豪雨による土石流で 39 戸の民家と北川分校が土砂の下に埋まった。さらに、29 日には西山が地すべりを起こし、鹿塩川を一時的に堰き止めた。鹿塩川にかかっていた橋の取り付け部分が流され、コンクリート部分だけが門のように残る。記念碑も立っている。	大鹿村鹿塩
(重複) こしぼし 小渋橋	三六災害の際に発生した大西山の大崩壊は、42 名の命を奪った。三六災害で一帯が賽の河原 <small>さいのかわら</small> と化した中で、変わらぬ姿で架かっていた 3 連アーチの橋。アーチと桁側面のへこみがしっかりと造られ、コンクリート橋の外観を引き締めている。白銀の赤石岳をバックにしたシルエットが美しい。信濃の橋百選に選定されている。	大鹿村大河原
だくりゅう こ い なだにさいがい 濁流の子－伊那谷災害の 記録（出版物）	1961（昭和 36）年 6 月下旬に伊那谷を襲った豪雨災害「三六災害」。その災害を目の当たりにした小学生、中学生、高校生らの作文を集め、1964（昭和 39）年に発行された冊子。碓田栄一 <small>うすだ</small> さんが個人で作業に当たった。文集は当時の学童、生徒自身の言葉で災害の恐ろしさ、友人を失った悲しみ、災害で家や田畑を失った状態での不安な高校受験、見知らぬ人々からの励まし、復興の様子などが語られている。	三六災害被災地広域

<p>たきさわ うるしがく ぼしゅうらくあと 滝沢、漆ヶ久保集落跡</p>	<p>滝沢集落は大鹿村との境にあった村で、滝沢川沿いに 7 世帯が暮らしていた。三六災害とその後の小渋ダム開発により約 300 年続いてきた集落がなくなった。 漆ヶ久保集落は四徳川沿いの桑原地区からさらに東の山中にあり、数軒の家があったが、昭和 30 年の初めには漆沢家 1 世帯が生活をしていました。漆ヶ久保も三六災害の折に大きな被害に合い漆沢家は村を離れた。 当時の集落跡・屋敷跡、屋敷の石垣・水田跡・墓石などの生活遺構が今も山中に残る。</p>	<p>中川村大草桑原</p>
<p>みすず みず はなし (重複)ふるさと美篤の水の話 (出版物)</p>	<p>「ふるさと美篤の水の話」は、1995(平成 7)年に美篤小学校 4 年 1 組が 1 年間にわたって一番井と二番井を調べ、まとめた冊子である。郷土勉強の一環として行われた極めて優れた教育成果の報告書である。一番井や二番井さらに北原平八郎翁の苦勞を詳しく調べられている。</p>	<p>伊那市美篤</p>

※三六災害とは：1961 年(昭和 36 年)に発生した大雨による災害。特に長野県南部の伊那谷など天竜川流域に氾濫や土砂災害による甚大な被害を与えた事で知られている。

### (3) 「遠山の地震」に学ぶことができるもの

名 称	説 明	所 在 地
<p>よがわせちく はらん 夜川瀬地区の氾濫</p>	<p>1718 (享保 3) 年の地震 (遠山地震) により、盛平山の北斜面が崩落し、岩塊が遠山川を堰き止めた。この時できた山が出山であり、亡くなった人の供養塔もある。遠山川が堰き止められて天然ダムができたが夜に決壊し、遠山川沿いにある和田集落の対岸の「夜川瀬地区」に土砂が流出・堆積して一夜にして氾濫原ができた。</p>	<p>飯田市南信濃和田</p>
<p>とおやま まいぼつりん 遠山の埋没林</p>	<p>714 (和銅 7) 年の大地震で山が崩れ、遠山川の堰き止め湖に木々が埋没した。現在は、当時の埋没林が河床に露出しており、南信濃大島、畑上などで見ることができる。これらの木のほとんどは、直径 50cm 以上の大木で、中には直径 1m 以上の巨木や樹齢 700 年以上のヒノキもあった。</p>	<p>飯田市南信濃</p>

※遠山の地震とは：714 年と 1718 年に発生した大きな地震により、山が崩れて遠山川がせき止められ、その後決壊し大きな被害を与えたことで知られている。



3. 「自然環境に適応してきた先人の足跡」を効果的に後世に引き継ぐことを重視したグループ

(1) 全国的にも希な地球活動の痕跡を体感できるもの

名 称	説 明	所 在 地
とびが す だいほうかいち とびが す 鳶ヶ巣大崩壊地 / 鳶ヶ巣 だいほうかいち 大崩壊地のビューポイント	明治以前から崩壊が続いている面積が 30ha にも及ぶ大崩壊地。土砂が小渋川をせき止め、たびたび災害を引き起こしていた。川沿いには押し出された扇状地が小渋川に削られて、何層にもなったレキ層が見られる。大鹿村上蔵の福徳寺前 <small>わぞ ふくとくじ</small> から崩壊地が望め、案内看板もある。	大鹿村大河原 / 大鹿村上蔵 (福徳寺前)
ひやっけん ひやっけん 百間ナギ / 百間ナギのビューポイント	与田切川の源流部に存在する「百間ナギ」と呼ばれる大崩壊地は、崩壊で堆積した礫層の厚さが 60m に達し、現在も常に土砂の流出が続いている。道の駅・花の里いいじま付近から望むことができる。	飯島町 / 飯島町七久保 (道の駅・花の里いいじま)
せんじょうじき 千畳敷カール	日本で唯一、山の麓から見えるカール。氷河時代には千畳敷は一年中氷に閉ざされ、氷が谷沿いに流れていた。カールはそのときの氷河によって作られた地形。カールの先端には氷河によって押し出された石や土が固まってできたモレーンとよばれる巨大な丘がある。カール壁ではしばしば雪崩が起きるが、モレーンの上部では雪崩が起きる心配がないため標高 2,612m にあるロープウェイの終着駅はモレーンの上に作られている。	駒ヶ根市、宮田村
たぎりちけい たぎりちけい (重複)田切地形 / 田切地形のビューポイント	天竜川の河岸段丘や断層崖を横断するように、太田切川、中田切川及び与田切川などが流れ、段丘面を激しく浸食して形成された伊那谷特有の地形。また、田切地形を一望することができるビューポイントとして、陣馬形キャンプ場が挙げられる。	宮田村、駒ヶ根市、飯島町 / 中川村大草 (陣馬形キャンプ場)
まえちやうす 前茶臼ナギ	小渋川上流上沢に位置する前茶臼山東側に広がる崩壊地。前茶臼山断層に関連して、崩壊が生じている。地質的には秩父中古生層のチャート・砂岩・泥岩の互層により構成されており、1898 (明治 31) 年及び 1929 (昭和 4) 年に大災害が発生したとされている。	大鹿村
あらかわだいほうかいち 荒川大崩壊地	荒川岳前岳の頂上近くから一気に崩れている大崩壊地。豪雨のたびに崩壊が発生している。崩壊した土砂の大半は、溪流に堆積し、その後の豪雨により土石流化して下流へ流下するケースが多いと考えられている。崩壊地から供給された岩石が堆積して、広大な「広河原」を形成している。	大鹿村
ふかみいけ 深見池	深見池は最大深度 8.5m、周囲 700m の天然の湖。1662 (寛文 2) 年の大地震の時に発生した、大きな地すべりの窪地に水がたまってできた。周囲が丘に囲まれていて風による水のかきまぜが少ないため、夏期には水面下 4m より深い層には酸素がとどかず、硫化水素を含むようになる。水中の硫酸イオンの量の多い火山・汽水地域でもないのに、夏期の光合成硫黄細菌層の発達するのは大変珍しく、国際学会でも発表されたことから、「LAKE FUKAMI IKE」として国際的にも著名になった。	阿南町東條
こまがねこうげん ななめいせき (重複)駒ヶ根高原の七名石	駒ヶ根高原には、「切石」「重ね石」「地蔵石」「袋石」「御座石」「蛇石」「小袋石」という七つの巨石 (七名石) が点在する。氷河の力と、洪水の力によって、駒ヶ岳の頂上から運ばれてきた石である。氷河時代に巨石が人間の住む平地にまで押し出された石は日本中でここしかない。	駒ヶ根市赤穂
あんこうろうとう 安康露頭	大鹿村を南北に貫く中央構造線南端、青木川沿いに位置する、幅約 30m におよぶ巨大な中央構造線露頭。安康は地名。領家変成帯 (向かって左側) の花崗岩などと三波川変成帯 (向かって右側) の緑色片岩などとの間に 2 列の角礫帯が観察できる。長野県天然記念物に指定されている。2013 (平成 25) 年 6 月、史跡名勝天然記念物指定に向け、文化庁の文化審議会が文部科学大臣に答申を行った。	大鹿村安康
きたがわろうとう 北川露頭	大鹿村を南北に貫く中央構造線北端、鹿塩川沿いに位置する中央構造線露頭。領家変成帯 (向かって左側) の花崗岩と三波川変成帯 (向かって右側) の緑色片岩の間が、地質境界の中央構造線。長野県天然記念物に指定されている。2013 (平成 25) 年 6 月、史跡名勝天然記念物指定に向け、文化庁の文化審議会が文部科学大臣に答申を行った。	大鹿村北川

<p>(重複) <u>芝平石灰岩採掘場跡</u> 芝平集落</p>	<p>伊那市高遠町芝平は中央構造線の外帯に位置し、純度 90%を越える炭酸カルシウムの石灰岩が豊富に産出された。江戸時代の1834（天保 5）年には高遠藩に産物会所が置かれた。幕末から中央線が開通する 1904（明治 37）年までが最盛期で、毎日 100頭を越える馬の列が山道に連なり、「仕事が豊富で栄え、よその村から多くの人々が働きに来た」と 1884（明治 17）年の記録に残されている。採石場と切り出された石灰石を運ぶために敷かれたトロッコ道、窯の石組みなどが残っている。芝平集落は採掘場の近くにあり、採掘最盛期は大変賑やかであったが、三六災害の後、多くの住民が移住した。</p>	<p>伊那市高遠町</p>
<p>坂本天山の<u>墾田の碑</u></p>	<p>太田切対岸の天竜川左支川塩田川の合流点であるこの地域一帯は、天竜川が常に流れを変え、手のつけられない荒地だったが、1789（寛政元）年の大洪水で一帯が干潟になった。中村道民は、3年の歳月を費やし、川岸に三重の堤防を造り、岩を穿って暗渠で用水を通して干潟を開田した。高遠藩の坂本天山（江戸期の有名な砲術師範）は墾田事業に感嘆し、目立つこの巨石に記念の文を刻んで石碑とした。墾田の碑を刻んだ巨石は花崗岩で、中央アルプスの頂上付近から氷河によってしらび平まで押し出され、土石流によって太田切川を下り、天竜川を横切ってここまで運ばれたものである。風化しやすい塩田花崗岩のため、刻まれた文字はほとんど判読できない。</p>	<p>駒ヶ根市東伊那</p>
<p>溝口<u>露頭</u></p>	<p>美和ダム湖中央部の吊り橋の右岸側に位置する中央構造線露頭。この露頭では、領家変成帯の砂泥質片麻岩と、三波川変成帯の間に、地質境界の中央構造線が観察できる。中央構造線に沿って、約 1500 万年前に入り込んだマグマが幅 4 m の珪長岩脈をつくっている。南方には分杭峠の断層鞍部が眺望でき、周辺は中央構造線公園として整備されている。</p>	<p>伊那市長谷溝口</p>
<p>板山<u>露頭</u></p>	<p>高遠市街地から国道 152 号線を北へ約 4km、正法寺裏の駐車場のすぐ上に位置する中央構造線露頭。板山露頭展望台からは、中央構造線のずれ動いた断層部分が侵食されてできたまっすぐな谷を遠望できる。左右のでき方が違う大地がずれ動いてできた境界で、急峻な西側の斜面と緩やかな東の斜面により、全く異なる地質が接している様子が観察できる。</p>	<p>伊那市高遠町長藤</p>
<p>段丘崖及び断層崖の<u>斜面樹林</u></p>	<p>天竜川及び三峰川などの伊那市周辺の河川沿いには段丘崖、断層崖が発達し、数段の連続した崖によって独特の地形を形成している。崖には連続的な斜面樹林が発達し、独特な景観をつくりだしている。三峰川の北には「六道原の段丘」が、南には「富県段丘」という大型の扇状台地が広がり古くから人々が暮らしていた。天竜川左岸に発達した段丘を一望できるビューポイントとして、伊那スキーリゾートが挙げられる。</p>	<p>伊那市</p>

(2) 伊那谷特有の田切地形に適応してきた先人の足跡を体感できるもの

名 称	説 明	所 在 地
<p>(重複) <u>田切地形</u>（田切地形のビューポイント）</p>	<p>天竜川の河岸段丘や断層崖を横断するように、太田切川、中田切川及び与田切川などが流れ、段丘面を激しく浸食して形成された伊那谷特有の地形。また、田切地形を一望することができるビューポイントとして、陣馬形キャンプ場が挙げられる。</p>	<p>宮田村、駒ヶ根市、飯島町／中川村大草（陣馬形キャンプ場）</p>
<p>(重複) <u>北の沢眼鏡橋</u></p>	<p>田切地形である北の沢川（辰野町）の谷を最短ルートで渡れるよう造られた橋。完成 1889（明治 22）年。橋台が石積み、アーチ部は煉瓦積みで、その形から「めがね橋」と呼ばれた。国の登録有形文化財及び信濃の橋百選に選定されている。</p>	<p>辰野町羽場</p>
<p>(重複) <u>太田切川の井筋</u></p>	<p>駒ヶ根市や宮田村は太田切川の扇状地上にあり、水を引くことが容易ではないため、農業用水や生活水の確保に苦労してきた。そこで、扇状地上方の上流側で取水し、そこから用水路を掘って水を下流の村へと送ることが考えられた。江戸時代には、太田切川の右岸に上の井、下の井、下平井、左岸に宮田井（黒川井）、丸山井の五用水がつくられた。</p>	<p>駒ヶ根市、宮田村</p>
<p>(重複) <u>恩田井水</u></p>	<p>阿智村の伍和地区は、地形が急峻で川が集落の遙か下を流れており、明治の頃まで井戸水の確保も困難な土地だった。漢方医</p>	<p>阿智村</p>



	<p>の太田宗硯<sup>そうすけ</sup>は、1860（万延元）年より地形測量を行い、恩田川から伍和へ水を引けることを確信した。太田宗硯<sup>そうすけ</sup>没後、1894（明治27）年に恩田井水組合が工事を開始し、1898（明治31）年、松沢山を回り込んで引き入れた延長6.5mの井水が完成した。その後、さらに井水は延長され、水田80haが灌漑されるようになった。</p>	
(重複)千人塚公園 城ヶ池 <sup>せんじんづかこうえん じょうがいけ</sup>	<p>千人塚のある土地は、数万年前、伊那谷の地殻の隆起運動で造られた台地である。平安時代に初めて人が住み始めたが、寒冷な高地の不便のためか長くは定住しなかった。城ヶ池はもとは城の空堀だったが、昭和初期に水を引いて灌漑用のため池にした。そして、このため池で温められた水が水田を潤すようになった。池の築造は、当時政府が国内で進めていた農村経済厚生事業により展開されたもので、失業者の救済目的も兼ねていた。2010（平成22）年、全国ため池百選に選定。</p>	飯島町七久保
(重複)太田切川 橋場礎石 <sup>おおたぎりがわ はしばせせき</sup>	<p>春日街道は江戸時代初期に完成した街道。その街道沿いの太田切川に架けられた「はね橋」橋脚の礎石。1968（昭和43）年2月、河川工事実施中に川のほぼ中央より発見された。礎石は河床に埋没している巨石（高さ約3m、幅約4.5m）に深さ13cm、径35cmの柱穴が穿ってある。この橋は、上野橋または北原橋と呼ばれており、明治中期まで光前寺への参拝道路であった。春日街道橋場跡碑が駒ヶ根側と宮田村側に建てられている。</p>	駒ヶ根市（太田切川橋場） （碑：駒ヶ根市北割一区／宮田村新田区）
(重複)駒ヶ根高原の七名石 <sup>こまがねこうげん ななめいせき</sup>	<p>駒ヶ根高原には、「切石」「重ね石」「地藏石」「袋石」「ござ石」「蛇石」「小袋石」という七つの巨石（七名石）が点在する。氷河の力と、洪水の力によって、駒ヶ岳の頂上から運ばれてきた石である。氷河時代に巨石が人間の住む平地にまで押し出された石は日本中でここしかない。</p>	駒ヶ根市赤穂
(重複)伊那電車軌道（後の伊那電気鉄道） <sup>いなでんしゃきどう のち いなでんきてつどう</sup> / Ωカーブ <sup>おめが</sup>	<p>伊那電車軌道は1909（明治42）年に開通した長野県で最初の民営鉄道。汽車ではなく電車方式による鉄道である。当時隆盛を極めていた蚕糸業（製糸と養蚕）の輸送を担うため、中央線の誘致を望んだが叶わず、飯田の漆器商・伊原五郎兵衛等の尽力により開設された。現在も当時の開設ルートがそのまま残り、田切地形を大きく迂回するルート「Ωカーブ」などで、全国的に有名である。</p>	飯島町

### (3) 水害や土砂災害に適応してきた先人の足跡を体感できるもの

名 称	説 明	所 在 地
名古屋山の水除け <sup>なごやま みずよけ</sup>	<p>南信濃の南和田名古屋山のゆるい斜面は、崖崩れと土石流によってできたものである。江戸時代につくられた水除けの堤防が残っている家があり、昭和の初めの土石流でも家を守った。</p>	飯田市南信濃南和田
理兵衛堤防 <sup>りへえていぼう</sup>	<p>中川村にある、松村理兵衛忠欣<sup>ただよし つねむら ただよし</sup>、常邑、忠良の三代にわたって天竜川に築かれた堤防。1808（文化5）年に完成。天竜川の大水の度に決壊し、そのつど補強や増築を繰り返してきた。時には新たに作り替えもしてきた。現在も現地に保存されており、天の中川橋からその一部を見ることができる。また、一部は天の中川橋のたもとに移築復元されている。</p>	中川村片桐
(重複)上蔵砂防堰堤 <sup>わ ぞ さほうえんてい</sup>	<p>小渋川に築かれた堤高23mのアーチ式コンクリート造堰堤。1954（昭和29）年完成した天竜川流域唯一のアーチ式砂防ダム。1951（昭和26）年着工で1954（昭和29）年に完成したが、その後の洪水で底ぬけを起こし、1961（昭和36）年に復旧事業が行われた。1966（昭和41）年度には副ダムの嵩上げ、1970（昭和45）年には第2副ダムが施工され、現在に至っている。2009（平成21）年に国の登録有形文化財に登録された。</p>	大鹿村大河原
栗沢川掘り抜き <sup>あわさわがわほりぬき</sup>	<p>栗沢川の氾濫を防ぐため、切り通しを掘り、栗沢川の流路を三峰川へ繋げるように変更する大工事を実施した。主な工事は1844（弘化元）年に一段落をみた。道路工事により掘り抜きを拡幅し、往時の雰囲気は留めていない。掘り抜きの上流に由来を示す看板と市野瀬城主の墓石がある。</p>	伊那市長谷市野瀬
河原弁天(後ろ向き弁天) <sup>かわらべんてん うしろむきべんてん</sup>	<p>弁天橋下流左岸の河原の自然石の上に祀られ、出水規模の目安にされてきた。天竜川通船の盛んだった江戸時代、商いを営む人たちが祀ったと伝えられる。1738（元文3）年の大洪水で村</p>	飯田市下久堅下虎岩

名 称	説 明	所 在 地
	境の争いが起こったとき、大岡越前守忠相が裁許を下した判決は「大岡裁き」と呼ばれている。	
<a href="#">三峰川の霞堤</a>	堤防の一部分を切り、下流側の堤防を田んぼや村のある方へ斜め上流に延ばし、ある程度の長さにわたって上流からの堤防と並行するようにするようになったもの。洪水の一部を氾濫源に逆流するように導き、堤防の決壊を防ぐとともに洪水を調節する効果がある。	伊那市美篤
惣兵衛堤防	飯田藩は現在の明神橋下流の場所に堤防を造る計画を立て、当時75歳の中村惣兵衛を工事長に任命して工事を開始した。1752（宝暦2）年に完成。大川除堤防、惣兵衛川除とも呼ばれる。出水ごとに補強工事がほどこされ、明治以後、上流下流に数条の堤防も新設された。市田・座光寺・上郷の沿岸低地は、市田田圃と言われる米の産地となった。しかし、1961（昭和36）年に発生した三六災害によって、惣兵衛堤防は破堤した。1854（安政元）年、「惣兵衛翁供養塔」が建立された。	高森町下市田
伴野堤防	天竜川を挟んで対岸の惣兵衛堤防からの水はねによる激流によって度々大災害を被ったことを契機として、惣兵衛堤防完成より57年後の1809（文化6）年に完成した。1828（文政11）年の大出水でほとんどが流失。その後も建設と修復が繰り返された。1883（明治16）年、松尾千振は伴野村有志による「開墾組」を組織し、堤防建設を進めた。その後も、堤防補強・修理が行われ、1904（明治37）年に一応完成したが、1961（昭和36）年に発生した三六災害によって、壊滅的に破壊された。昔の伴野公園に千振と開墾組の石碑がある。	豊丘村神稲
座光寺石川除	天竜川を挟んで対岸の伴野堤防によりはね返された激流は対岸の座光寺村めがけて直進していき、座光寺石川除を造る契機となった。伴野堤防完成より22年後の1831（天保2）年に完成した。1961（昭和36）年に発生した三六災害によって、惣兵衛堤防と伴野堤防は破堤したが、座光寺石川除の保存状態は極めて良い。現在は市道の道路端、耕地の真ん中に位置している。村で建設資金を集めて1831年に完成させた堤防で、1835年には約76mに渡り崩れ、現在残っているのは1868（明治元）年のもの。	飯田市座光寺
お志茂の水よけ	前沢川は土石流の頻発する河川で、下流右岸の田島地区新井はたびたび災害に見舞われた。前沢川の土石流の氾濫原にあったと考えられる松村家（屋号お志茂・松村理兵衛の分家）は、水害から屋敷や、下流の田畑を守るため、上流側に向けて鋭角に石を積み船形にした石積みを造った。場所は、理兵衛堤防の西250mの位置にある。	中川村片桐
日向沢砂防堰堤	1933（昭和8年）、飯島町七久保日向沢に砂防堰堤が建設された。景観や強度への配慮から間知石積ではなく野面石積とした堰堤。また法切、基礎工事にも工夫を施した。本事業は農民を労働者として雇用して救済する「農救事業」により行われた。	飯島町七久保
(重複)七釜砂防堰堤	仏像構造線の位置につくられた砂防堰堤。荒川大崩壊地から流出する土砂を調節するため、高さ28m、堤長122.5m、計画貯砂量121万mの砂防ダムとしては大規模なダムが1984（昭和59）年に完成した。基礎岩盤が深いため堰堤の基礎処理として簡易ケーソン工法を使用している。この工法の堰堤は全国的に珍しい。	大鹿村大河原

4. 「水の恵みとふれ合うことができる先人の足跡」を効果的に後世に引き継ぐことを重視したグループ

(1) 電源開発に挑んだ先人の情熱とふれ合うことができるもの

名 称	説 明	所 在 地
ひらおか 平岡ダム	1951 (昭和 26) 年に竣工した発電用ダム。天竜川流域で戦前に建設・計画されたダムの中では、最大の高さ(62.5m)であり、「暴れ天竜」が作り上げてきた溪谷がそのままダム湖となっている。太平洋戦争の時代に中国・朝鮮半島の人々や敵対する連合軍の捕虜を強制的に使役して建設した歴史を持つ。	天龍村平岡
やすおか (重複)泰阜ダム	1935 (昭和 10) 年に竣工した天竜川流域では最も古い歴史を持つ発電用ダム。日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物 2800 選)に選定されている。	泰阜村～阿南町
さんしんてつどう (重複)三信鉄道	JR 飯田線の「天竜峡～三河川合 (約 70km)」区間で、1937 (昭和 12) 年に全線開通した。天竜川の険しい地形と中央構造線のもろい地質に阻まれ、日本の鉄道史に残る難工事となった。泰阜ダムや平岡ダムの建設資材の運搬などにも大きな効力を発揮した。北海道の多くの鉄道で測量技士を勤めた川村カ子トがアイヌ測量隊を率いて断崖絶壁での測量作業をやり遂げ、難工事の末に完成させたとの逸話もある。工事には朝鮮人労働者も多く従事していた。三信鉄道為栗駅 <small>してぐり</small> の北西には、信濃の橋百選に選定されている万古川橋梁がある。	新城市川合～飯田市川路 天竜峡
おぐるほつでんしょ 小黒発電所	伊那谷に現存する一番古い発電所。長野電灯 (株) が建設し、1913 (大正 2) 年に完成。1915 (大正 4) 年、伊那電気軌道 (株) へ譲渡され、伊那電気鉄道等、上伊那地域の発展に大きく寄与した。現在は中部電力(株)が管理している。 建設当時は、約 2km 上流の取水口から発電所の真上に見える水槽まで木の樋を使い、導水路延長 1,358m、落差 226m で、250kw の発電をしていた。現在は機械の取替えにより 1,100kw の発電が可能である。 2013 (平成 25) 年に、運転開始から 100 年の記念式典が行われた。	伊那市伊那
おおくぼはつでんしょ 大久保発電所	下流にある南向発電所の建設用として、1926 (大正 15) 年 11 月から 1927 (昭和 2) 年 9 月にかけて、天竜川電力 (株) がわずか 10 か月で建設した天竜川本流にできた最初の発電所である。高い落差を利用した発電所と異なり、多量の水の水圧を利用したダム式で、4 台の水車ランナが水槽の中に入っていて、落差が 5.7m と低い全国でも珍しい発電所。ダムは堰堤高約 3.5m、長さ約 26m。発電所はダムの約 376m 下流にある。南向発電所建設以後は発電した 1500 キロワットの電気を、上伊那地区の家庭と工場に送っている。	駒ヶ根市東伊那
まつかわだいいちはつでんじょあと <a href="#">松川第一発電所跡</a>	1899 (明治 32) 年飯田電灯(株)は、米国製発電機を使って伊那谷で最初の発電所 (松川第一発電所) を建設した。最大出力 75 kW。1930 (昭和 5) 年に廃止され、今は発電に使う水を通した導水路 (石積み) を対岸に残している。 1919 (大正 8) 年松川第二発電所を下流に、1924 (大正 13) 年松川第三発電所を上流に建設。 1930 (昭和 5) 年松川第四発電所を新設し、第一・第二発電所は廃止された。	飯田市上飯田

(2) 利水開発に挑んだ先人の情熱とふれ合うことができるもの

名 称	説 明	所 在 地
にしでんりゅうかんせんすいろ (重複)西天竜幹線水路 えんとうぶんすいこうぐん 円筒分水工群	西天竜幹線水路から水を分けるために設けられた分水施設群。現在、円筒分水工が 35 基活用されており、大小の分水を加えると実に 83 基に上るとされる。2006 (平成 18) 年に土木学会選奨土木遺産に認定された。	辰野町、箕輪町、南箕輪村、伊那市
ひがしてんりゅういっかんすいろ (重複)東天竜一貫水路	辰野町平出の天竜川左岸で取水して、辰野町赤羽・樋口地区から箕輪町北小河内地区へ流下している、総延長 9,140m の竜東地区で重要な幹線用水路。1927 (昭和 2) 年に用水に取水する頭首工が建設された。頭首工の表面は、自然石を配置し、堤体はカーブしている。東天竜用水路頭首工は日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物 2800 選)に選定されている。	辰野町平出～赤羽～樋口、箕輪町北小河内



名 称	説 明	所 在 地
(重複) 深沢川水路橋	西天竜幹線水路事業で深沢川(箕輪町)の谷を越えるために造られた水路橋。1927(昭和2)年完成。日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物2800選)及び信濃の橋百選に選定されている。現在は町道(車道)として利用されている。	箕輪町中箕輪八乙女
伝兵衛五井／三峰川流域の 水路	三峰川流域では幾度も井筋の掘削が試みられ、幾筋もの用水路が造られてきた。伊東伝兵衛が手がけた井筋の中で、代表的な5つ(鞠が鼻井筋(春富大井筋・伝兵衛井)、大島二番井(六道二番井)、小原井筋(太田井、勝間下井)、黒河内新井筋(お鷹岩井筋)、上伊那井筋(伝兵衛堰/辰野町))は総称して伝兵衛五井と呼ばれる。伝兵衛五井以外では、伊那市長谷の黒川の上流から引かれた和泉原井筋、美和ダムの残存営農対策で黒川から引かれた美和一貫水路、山室川から引かれた月蔵井、藤沢川から引かれた六道原一番井などがある。これらは、復旧・再建工事など、多くの人々の努力による維持管理や改良を重ねて現在に至っている。	伊那市
木曾山用水	塩尻市(旧木曾郡檜川村)の奈良井川の源流白川より水を取り、中仙道奈良井宿から伊那へ通じる権兵衛峠に沿うようにして、北沢川へ流すための延長約12kmに及ぶ水路で1873(明治6)年に完成した。本来、日本海へ流れるはずの奈良井川上流白川の水は、この水路を経て太平洋へ流れることになった。権兵衛峠には分水嶺の碑・古畑権兵衛碑・井筋水榭(奈良井川から北沢川井水を取り入れていた榭)がある。	塩尻市(旧木曾郡檜川村)～伊那市上戸、中条
御子柴艶三郎による井／横 井戸群	経ヶ岳山麓に広がる南箕輪村から伊那市にかけての扇状地は、保水力が弱く、常に灌漑用水が不足する土地であった。段丘崖下に湧き出す水脈を頼りに、横井戸を掘って水を集め、細々と飲用や、灌漑に利用してきた。多くの井戸は明治始めから同30年ころに掘削されたが、現在確認できる横井戸は少ない。1898(明治31)年、伊那市上荒井地区の御子柴艶三郎は私財を投げ打ち、神に命を捧げる約束のもと横井戸を掘り、苦勞の末に水脈を発見。1900(明治33)年12月、約束通り命を絶った。この井戸は思いのほか水量が多く、一帯の約40haが水田となった。水神宮・碑・穂坂式分水タンクなどが現存する。	南箕輪村～伊那市
(重複)西天竜幹線水路 流末 の階段工(小沢のそろばん滝)	西天竜幹線水路の末端の水を小沢川へ落とすためにつくられた階段工。困難な工事の末、完成した。その後、用水の落差を活用した発電所を小沢川沿いに設置することとなり、発電所は1961(昭和36)年に完成した。水路の水は導水管により発電所に入ることとなり、それ以来、階段工は使われなくなった。	伊那市小沢
(重複)ふるさと美篤の水の話 (出版物)	「ふるさと美篤の水の話」は、1995(平成7)年に美篤小学校4年1組が1年間にわたって一番井と二番井を調べ、まとめた冊子である。郷土勉強の一環として行われた極めて優れた教育成果の報告書である。一番井や二番井さらに北原平八郎翁の苦勞を詳しく調べられている。	伊那市美篤
(重複)太田切川の井筋	駒ヶ根市や宮田村は太田切川の扇状地上にあり、水を引くことが容易ではないため、農業用水や生活用水の確保に苦勞してきた。そこで、扇状地上方の上流側で取水し、そこから用水路を掘って水を下流の村へと送ることが考えられた。江戸時代には、太田切川の右岸に上の井、下の井、下平井、左岸に宮田井(黒川井)、丸山井の五用水がつけられた。	駒ヶ根市、宮田村
(重複)千人塚公園 城ヶ池	千人塚のある土地は、数万年前、伊那谷の地殻の隆起運動で造られた台地である。平安時代に初めて人が住み始めたが、寒冷な高地の不便さのためか長くは定住しなかった。城ヶ池はもとは城の空堀だったが、昭和初期に水を引いて灌漑用のため池にした。そして、このため池で温められた水が水田を潤すようになった。池の築造は、当時政府が国内で進めていた農村経済厚生事業により展開されたもので、失業者の救済目的も兼ねていた。2010(平成22)年、全国ため池百選に選定。	飯島町七久保
竜西一貫水路	1969(昭和44)年に竣工。南向発電所(中川村)の放水路から取水し、天竜峡付近に至る。総延長24kmの西天竜一貫水路とほぼ同規模の大用水。これにより、天竜川右岸の扇状地上は、諏訪湖の下流近くから天竜峡に至るまでのほぼ全域が灌漑されることになった。	中川村、松川町、高森町、飯田市

名 称	説 明	所 在 地
竜東一貫水路 <small>りゅうとういっかんすい</small>	「県営灌漑排水事業」として建設された一貫水路。小渋ダムから飯田市下久堅まで流れる用水路。1967(昭和42)年着工、1979(昭和54)年に竣工したこの用水路により、既成田407ha、開田141ha、畑地238haの計786haが灌漑されるようになった。灌漑対象地域は、松川町生田、豊丘村、喬木村、飯田市下久堅であり、その受益地域は主に標高450～550mの南北に細長い段丘上である。	松川町、豊丘村、喬木村、飯田市
松川プール跡 <small>まつかわ あと</small>	飯田市中心部は台地上に立地し、生活用水の確保が大きな課題であった。そのためプールなどに使える水はなく、周辺の河川やため池で水泳をしていたが、1925(大正14)年、鼎村の本田 <small>ほんだ</small> 亥太郎が私有地を提供し、松川の水を引き入れた「松川プール」を建設した。松川プールは周辺の学童・生徒や多くの住民に利用され、水泳大会が開かれたほか、プールサイドに植えられた桜が花見の名所にもなるなど、飯田市郊外の身近な行楽地であった。その後、水質の問題や設備が充実したプールの要望が高まり、1960(昭和35)年、飯田市民プール建設に伴い、しだいにその役割を終えた。現在、松川プールは池になり、敷地はブライダル施設、周辺は桜の名所となっている。	飯田市鼎
(重複)恩田井水 <small>おんた いすい</small>	阿智村の伍和地区は、地形が急峻で川が集落の遙か下を流れており、明治の頃まで井戸水の確保も困難な土地だった。漢方医の太田宗硯 <small>そうすけ</small> は、1860(万延元)年より地形測量を行い、恩田川から伍和へ水を引けることを確信した。太田宗硯没後、1894(明治27)年に恩田井水組合が工事を開始し、1898(明治31)年、松沢山を回り込んで引き入れた延長6.5mの井水が完成した。その後、さらに井水は延長され、水田80haが灌漑されるようになった。	阿智村



5. 「個性豊かな文化の形成及び文化の交流に関する先人の足跡」を効果的に後世に引き継ぐことを重視したグループ

(1) 人々の暮らしを支えた中馬と通船の歴史を振り返ることができるもの

名 称	説 明	所 在 地
いりふねふなつきば 入舟船着場	江戸時代から船着場として利用された場所。明治になって通船が盛んになり、運行も多く行われた。明治30年代になると、坂下と時又間の定期通船も始まった。大橋のたもとにあり、弁財天宮の脇に、1971(昭和46)年建立の史跡標柱が残されている。	伊那市坂下
ときまたこう 時又港	通船の最盛期を迎えた明治の終わりから昭和の初めにかけて、伊那谷と遠州地方をつなぐ重要な水の道として栄えた。その後、各所に設けられた発電ダムにより水の道は分断されて終焉し、今は、観光遊船が行われているだけとなった。	飯田市時又
いなかいどう さんしゅうかいどう 伊那街道(三州街道)	伊那街道は、中馬で荷駄を運ぶ通商の道として、江戸時代は盛んに利用された道。別名三州街道とも呼ばれ 中山道塩尻宿から分岐し、辰野、伊那、駒ヶ根、飯田と南下し、浪合、平谷、根羽の各村、柚路峠を経て三河足助を経由し岡崎で東海道に合流する。現在の国道153号線は、ほぼこの道筋をたどっている。浪合には復元された関所跡がある。	辰野町～根羽村
あきはかいどう 秋葉街道	秋葉街道は、近世中・後期から、火防の神としても知られる秋葉神社参詣のために盛んに利用された道。 ①高遠的場ー長谷ー分杭峠ー大鹿村ー地蔵峠ー南信濃ー青崩峠ー遠州に至る道筋、②飯田市八幡ー飯田市下久堅・上久堅ー小川路峠ー地蔵峠で合流、の二つの道筋があり、秋葉信仰が広まるよりも前から存在していた古い道で、諏訪からは、太平洋への最短経路であった。	伊那市、大鹿村、飯田市

(2) 人々の暮らしを支えた橋の歴史を振り返ることができるもの

名 称	説 明	所 在 地
こやきょう 姑射橋	天竜川随一の景勝地「天竜峡」に架けられた、四代にわたる歴史のある橋。三六災害時の「天竜川氾濫最高水位の碑」が設置されている。信濃の橋百選に選定されている。	飯田市龍江～川路
みなばらほし 南原橋	天竜川で最初にかげられた定橋。1870(明治3)年に完成した初代の南原橋は、橋脚を使わない「はね橋」構造であった。川幅が30間(54m)と比較的狭いが断崖絶壁の鷲流峡に橋を架ける仕事は容易ではなかった。南原橋右岸川岸にははね木を支えたと思われる穴が開いている。左岸側にある橋場稲荷境内には、昭和3年に建てられた南原橋の碑がある。	飯田市下久堅南原～駄科
きたの さわめがねほし (重複)北の沢眼鏡橋	田切地形である北の沢川(辰野町)の谷を最短ルートで渡れるよう造られた橋。完成1889(明治22)年。橋台が石積み、アーチ部は煉瓦積みで、その形から「めがね橋」と呼ばれた。国登録有形文化財及び信濃の橋百選に選定されている。	辰野町羽場
さかどほし (重複)坂戸橋	1993(昭和8)年に竣工した優美な鉄筋コンクリートアーチ橋で、建設当時、鉄筋コンクリートアーチ橋としては我が国最大のスパンを誇った。コンクリートでありながら木彫の面取りを採り入れ、柱は上に細くそそり立つ。そのデザインは圧巻である。2010(平成22)年に国の登録有形文化財に登録され、信濃の橋百選に選定されている。	中川村大草～片桐
こしふほし (重複)小渋橋	三六災害の際に発生した大西山の大崩壊は、42名の命を奪った。三六災害で一帯が賽の河原と化した中で、変わらぬ姿で架かっていた3連アーチの橋。アーチと桁側面のへこみがしっかりと造られ、コンクリート橋の外観を引き締めている。白銀の赤石岳をバックにしたシルエットが美しい。信濃の橋百選に選定されている。	大鹿村大河原
びつたらほし びつたら橋	江戸時代末期まで、諏訪湖の排水を妨げるような橋を架設することができなかったことから、川の中に石を置き、その上に板を渡して渡った。板が安定するように石の上に平らなくぼみを彫り、増水時、板が浮いても流れないように、綱を石の穴に通して結んだ。通行人が歩くと、橋板がたわんで川面を「びたびた」と打つため、「びつたら橋」といわれたという。	岡谷市御倉町

名 称	説 明	所 在 地
おほし 大橋	古くは通船の船着き場であった場所。今昔とも往来の要衝にあるこの橋は、近隣では大きさも際立っていたことから、自然に「大橋」の名が定着したようで、現在もそれが正式名称となっている。この橋の記録は、織田軍の侵攻（1582（天正10）年）の記述がある『下条記』に「伊那部前之橋」とあるのを筆頭に、『信濃国絵図』（1647（正保4）年）や『高藩探勝』（1743（寛保3）年）にも描かれるなど、古くから記録が残っている。長い期間「木橋」だったが、1933（昭和8）年に永久橋となった。信濃の橋百選に選定されている。	伊那市中央～坂下
にじばし 虹橋	1958（昭和33）年に完成した高遠ダムから取水した水は、かんがい水路を通り、三峰川右岸一帯へ運ばれ、約1,140haの農地を潤している。虹橋は、この水を三峰川右岸へ運ぶための水路橋。 用水は、左岸の伊那市高遠町小原から三峰川を水路橋で渡った後、右岸1号、2号幹線に分かれる。両岸が絶壁となっている場所を、アーチ型で渡り、建設当初から「虹橋」と呼ばれる。	伊那市高遠町～美篁
めがね橋（長姫橋）	江戸時代、飯田城下町（現飯田市街地）は深い谷（谷川）によって南北に二分されていた。谷川に木橋が架けられたが、橋の南（堀端通り（現銀座通り））と、北（伝馬町）は急坂を上り下りしなくてはならなかった。 明治維新後に飯田城が廃城になると、中馬によって物資が集まる交通の要衝として、馬車通行を想定し、橋の前後の坂を埋め立てることとなり、1878（明治11）年、谷川にアーチ型の石橋が完成した。かつての谷川橋が、この時、飯田城の古名を残すために「長姫橋」と改称されたが、その形状から「めがね橋」と通称された。1947（昭和22）年の大火後の改修で正式に「めがね橋」となった。信濃の橋百選に選定されている。	飯田市伝馬町～銀座
いなじばし 伊那路橋	江戸中期には架設され、伊那路と江戸を結び中馬輸送を支えた街道の橋。伊那路と中山道の下諏訪宿を最短で結ぶ岡谷道（諏訪道）の整備とともに往来が盛んになった。当時の橋は「大橋」と呼ばれており、経費を幕府が負担する「主要街道の橋」と位置づけられていた。 現在の橋は1994（平成6）年に架け替えられたものである。	箕輪町東箕輪～中箕輪
きたのじょうばし 北の城橋	北の城橋は、つり橋としては天竜川に架かる最上流の橋。たびたび水害に遭うため渡船が常用されていたが、1928（昭和3）年につり橋が架けられた。現在の橋は1958（昭和33）年7月の豪雨災害による崩落の後に修復されたもの。名前の由来は、近くの中世の史跡「北の城」。信濃の橋百選に選定されている。	宮田村中越～駒ヶ根市東伊那
なかのばし 中之橋	我が国最初期の「鉄筋コンクリート製カンチレバー桁橋」の一つで、1932（昭和7）年に架設。県内では1931（昭和6）年に完成した大正橋（千曲市、現存せず）に次いで2番目に古い。完成当初は鉄筋コンクリート桁橋としては最大の支間長26mを誇った。阿知川の洪水に耐えうる永久橋として、1882（明治15）年架設のつり橋や大正年代の架け替えを経て建設された。信濃の橋百選に選定されている。	阿智村駒場
なんぐうおほし 南宮大橋	この地は、古くは南宮峡と呼ばれる景勝地で観光船が発着するほど賑わっていた。1897（明治30）年に左岸の泰阜村温田地区、右岸の阿南町御供地区が、中州（中ノ島）を境にそれぞれ木橋とつり橋の二つの橋を架けた（私設有料橋）。1951（昭和26）年に南宮2号橋が架け替えられたが、同じ年、下流に平岡ダムが完成し、堆砂により河床が上昇した。1983（昭和58）年の台風災害では冠水被害が出た。1995（平成7）年6月に水面から十分な高さを持つ斜張橋「南宮大橋」に架け替えられた。信濃の橋百選に選定されている。	泰阜村温田～阿南町北条
てんりゅうばし 天竜橋	長野県が管理する唯一のつり橋。 秘境の無人駅、JR飯田線為栗駅に通じる歩行者専用のつり橋である。駅前まで車は入れないが、駅前が県道為栗和合線の起点であるため、県道となっている。 信濃の橋百選に選定されている。	天龍村平岡～長島

名 称	説 明	所 在 地
はごろもぎきばし 羽衣崎橋	天竜川の名勝「羽衣崎」は、平岡ダム湖の湖面となる地にあり、山紫水明の溪谷の自然美と調和したニールセンローゼ形式が採用されている。 平岡ダム湖岸道路開設事業として1974(昭和49)年に完成。県最南端地域の生活を支える重要な道にある。 信濃の橋百選に選定されている。	天龍村平岡～長島
(重複) おおたぎりがわ はしほそせき 太田切川 橋場礎石	春日街道は江戸時代初期に完成した街道。その街道沿いの太田切川に架けられた「はね橋」橋脚の礎石。 1968(昭和43)年2月、河川工事実施中に川のほぼ中央より発見された。礎石は河床に埋没している巨石(高さ約3m、幅約4.5m)に深さ13cm、径35cmの柱穴が穿ってある。この橋は、上野橋または北原橋と呼ばれており、明治中期まで光前寺への参拝道路であった。春日街道橋場跡碑が駒ヶ根側と宮田村側に建てられている。	駒ヶ根市(太田切川橋場) (碑:駒ヶ根市北割一区 /宮田村新田区)

### (3) 人々の暮らしを支えた森林鉄道の歴史を振り返ることができるもの

名 称	説 明	所 在 地
うら くろこうちしんりんてつどうあと 浦・黒河内森林鉄道跡	浦森林鉄道は、1939(昭和14)年、赤石山系の豊富な森林資源を開発するため、三峰川沿いの浦国有林に敷設された。現伊那市長谷の杉島貯木場を起点とし、南荒川終点まで23.6kmが整備された。1959(昭和34)年8月の台風と、1961(昭和36)年の三六災害で壊滅的な被害を被った。1964(昭和39)年に林道が完成し、浦森林鉄道は廃止された。 黒河内森林鉄道は、1939(昭和14)年、伊那市長谷黒河内の蟹坂貯木場(現保養センター仙流荘)を起点に小黒川沿いに敷設された(総延長19.8km)。戸台には70戸ほどの集落があり、森林鉄道は、木材、薪炭、生活物資、人員輸送も兼ね、黒河内国有林の動脈として機能し、生活に密接な関わりを持っていた。 1956(昭和31)年に全線廃止された。	伊那市長谷
とおやま しんりんてつどう なしもとちよぼくじょう 遠山の森林鉄道 梨元貯木場 あと 跡	梨元に営林署の貯木場が設けられ、木材を運び出すために使用された鉄道(1944(昭和19)年～1968(昭和43)年)。民間企業(5社)も、台車1台あたりの契約で営林署に使用料を払い、伐り出した木材を自社の機関車で運んだ。いずれも1965(昭和40)年ごろまでに事業を終えて撤収したが、土場の施設は1970(昭和45)年まで使用されていた。民間企業が伐採した木材を、営林署が運び出すのではなく、営林署に軌道使用料を払い、複数の企業が自前で列車を走らせていたという例は非常に珍しい。	飯田市南信濃

### (4) 人々の暮らしを支えた峠の歴史を振り返ることができるもの

名 称	説 明	所 在 地
うしくびとうげ 牛首峠	1601(慶長6)年、徳川家康が、東海・中山・奥州・日光・甲州の五街道の制を定めた。幕府の勘定奉行であった大久保長安は、中山道のルート決定にあたり、下諏訪から岡谷、三沢を経て小野宿を通り、牛首峠を越えて贄川に至る小野街道を開いた。 1616(元和2)年、塩尻峠を通る中山道が開通し、牛首峠を通る道は、わずか15年で廃道となったが、伊那米の木曾への移入路として江戸時代を通じて大いに利用された。	辰野町小野
じせうとうげ 地藏峠	大鹿村の青木川と上村の分水嶺となっており、古くから秋葉街道の中の難所の峠の一つだった。 標高1314m。古くは「遠山峠」とも呼んだ。名前の由来となった地藏は、元々は峠の南にある「堂屋敷」地籍に安置されており、四基あったうちの二基を大正時代頃に相次いで移転したものという。	大鹿村、飯田市
うとうとうげ 善知鳥峠	太平洋側の伊那谷と、日本海側の松本平の分水界になっており、峠には分水嶺の碑もある。 江戸時代から明治の初期までは、中馬の発着点の松本と飯田を結ぶ伊那街道の峠として人馬の往来で賑わった。峠から北小野にかけての街道沿いには、馬の供養や安全祈願のために建てられた石の馬頭観音が非常に多い。	塩尻市上西条～北小野



名 称	説 明	所 在 地
おおだいらとうげ 大平峠	飯田市と南木曾町の境にある峠（標高 1,385m）。大平街道は伊那と木曾、両方の谷を最短距離で結ぶ街道で、大平峠と飯田峠の二つの峠がある。この道は 16 世紀後半から活用され、1755(宝暦 5) 年に飯田藩主堀親長が改修した後は、清内路峠より距離的に近い大平峠が人馬の往来で栄えた。旅籠、休み茶屋、問屋もできて宿場町の機能を持つようになった。明治・大正には大平宿として隆盛した。しかし、飯田線の全線開通、自動車輸送の発達により宿場としての機能は衰え、1970（昭和 45）年、集落は集団移住し、廃村となった。	飯田市上飯田
つえつきとうげ 杖突峠	伊那市高遠町と茅野市の境界にある峠。標高 1,247m。国道 152 号が通っている。杖突峠の南に位置する「守屋山」は諏訪大社のご神体であり、かつてこの峠では神降ろしの儀式が行われていた。降りてきた神がはじめてその杖を突く場所がこの峠であることから、杖突峠という名がついたとされる。	伊那市高遠町、茅野市宮川
ぶんぐいとうげ 分杭峠	伊那市と下伊那郡大鹿村との境界に位置する標高 1,424m の峠。静岡県浜松市の秋葉神社へ向かう街道として古くから利用された秋葉街道の峠の一つであり重要な交通路であった。秋葉街道は西日本の地質を内帯と外帯に二分する中央構造線の断層谷を利用した街道であり、分杭峠は中央構造線の谷中分水界にあたる。	伊那市長谷市野瀬、大鹿村鹿塩
ごんべえとうげ 権兵衛峠	権兵衛峠は経ヶ岳と駒ヶ岳の鞍部に開かれた標高 1,522m の峠。宿場町の木曾は稲作に適さない地形のため米が不足していた。そこで木曾の牛方古畑権兵衛が、伊那谷より米の移入をスムーズにするため木曾谷と伊那谷との交通路として改修した。難工事の末、1696（元禄 9）年に開通。峠には江戸時代の石碑が残っている。	南箕輪村北沢、塩尻市栃洞沢
じぶざかとうげ 治部坂峠	標高 1,191m。治部坂峠は、阿智村（旧浪合村）と平谷村との境にあり、三州街道の最高標高地点である。峠の北側の崖上には、武田氏以来の関所跡があり、礎石などの遺構が残っている。峠付近の山麓部は戦前は牧場として利用されていたが、最近では避暑地として別荘地が整備されたり、スキー場が開発されている。	阿智村、平谷村

(5) 自然と共生してきた先人の暮らしを体感できるもの

名 称	説 明	所 在 地
いなしすわがた ししがき 伊那市諏訪形の猪垣	江戸時代、藤沢川から太田切川に至る標高 700m の地域に、イノシシやシカなどの農作物への被害を防ぐために造られた柵。伊那市史跡の猪垣が残り、土手の上に乱杭を連ねた木柵が復元されている。	伊那市西春近
さんよりこより	美簗と、富県桜井の天伯様に伝わる七夕祭りで、毎年 8 月 7 日に行われる。七夕の神事。三峰川の洪水を鎮める目的。 伝承によれば、室町時代中期、1427（応永 34）年、藤沢片倉（現高遠）に居られた天伯様が洪水によって富県桜井に流れ着き、その後再び洪水によって美簗川手に流れ着いた。これを縁として、桜井と川手に天伯様をお祀りしたのがはじまりとされ、足利時代の 1472（文明 4）年から続いていると云われている。	伊那市美簗、富県
とおやま しもつきまつり 遠山の霜月祭	湯立神事で古代に宮廷で行われていた祭事が伝承されていると言われている。1979（昭和 54）年には霜月祭りが国重要無形民俗文化財の指定を受けた。上村と南信濃に伝わる湯立神楽。12 月上旬から翌年 1 月上旬までの 1 カ月間に両村合わせて 13 の神社で行われている。神事を中心は水にかかわる湯立であり、神事全体を通じて防災意識が見られる。	飯田市上村、南信濃
にいの ゆきまつり 新野の雪祭	新野の雪祭は、雪を稲穂の花にみたくて、大雪（豊年）を願う祭り。祭り当日に雪が降ると豊年になるといわれ、新野に雪がないときであっても、離れた峠から雪を準備し、神前に供える。伊豆神社境内で行われ、田楽・舞楽・神楽・猿楽、田遊びなどの日本の芸能絵巻が徹夜で繰り広げられる。1977(昭和 52) 年、国重要無形民俗文化財に指定された。	阿南町新野

名 称	説 明	所 在 地
てんりゅうむら しもつきかぐら 天龍村の霜月神楽	毎年正月の1月3日から5日(むかがた)にかけ、向方地区(天照大神社 お 潔め祭)、坂部地区(諏訪神社 冬祭)、大河内地区(池大神社 例 祭)で行われる冬祭り。いずれの祭りもかまどを築いて湯をた ぎらせ、それを神々に献じてから人々に振りかけて魂を清め、 同時に神歌をうたい、あるいは舞をまうという湯立神楽の形式 をとどめており、祭り全体から水の神聖さが伝わる。 1978(昭和53)年、国重要無形民俗文化財に指定された。 3地区のうち坂部は、仮面の舞など豊富な内容をもっている。	天龍村向方、坂部、 大河内
し びらせっかいがんさいくつじょうあと (重複) 芝平石灰岩採掘場跡 し びらしゅうらく 芝平集落	伊那市高遠町芝平は中央構造線の外帯に位置し、純度90%を越 える炭酸カルシウムの石灰岩が豊富に産出された。江戸時代の 1834(天保5)年には高遠藩に産物会所が置かれた。幕末から 中央線が開通する1904(明治37)年までが最盛期で、毎日100 頭を超える馬の列が山道に連なり、「仕事が豊富で栄え、よその 村から多くの人働きに来た」と1884(明治17)年の記録に残 されている。採石場と切り出された石灰石を運ぶために敷かれ たトロッコ道、窯の石組みなどが残っている。芝平集落は採掘 場の近くにあり、採掘最盛期は大変賑やかであったが、三六災 害の後、多くの住民が移住した。	伊那市高遠町
みすずあおしま せんしやまい 美簗青島の千社参り	伊那市美簗青島区で続く年中行事。毎年、土用入りの7月20日 前後の日曜日に全戸が参加して行われる。諏訪社(子安神社) で神事を行った後、隣組の組長がくじ引きをして担当地区を決 め、「千社参り」と刷られた千枚のお札を市内各地の寺社や石造 物に奉納する。青島区は江戸時代から三峰川の氾濫に苦慮して きた歴史があり、その水害に対する願いがこの行事の発端及び 継続の一因と推定される。	伊那市美簗